第７８号　令和８年３月３１日発行

埼玉産業教育

埼玉県産業教育振興会

『 消費者と事業者 』

埼玉県消費生活支援センター　所長
執　筆　者　岡田　美保

「事業者」の反対語は「消費者」です。用語上は事業者と消費者は「相対」するものです。実際、県で事業者支援の仕事を経験した私が現職への異動を命じられた際には「今度は逆側の仕事だ」と思いました。

さて、県の消費者行政について簡単に御説明します。埼玉県内には住民に身近な各市町村と県に消費者支援センター（県は２か所：川口、熊谷。名称「消費生活支援センター」）が設置されており、それぞれ消費生活相談や消費者教育（講座の実施や啓発活動）などを行っています。電話で「１８８（いやや）」とプッシュすれば、地元の消費者支援センター（消費者相談）に繋がります。県内の相談は年間５万件を超え、この件数は高止まりです。人は皆、毎日、たくさんの物やサービスを使って生活していますから、その購入や契約の際に行き違いやトラブルが生じた瞬間、誰でも「相談者側」になり得ます。日々報道もされていますが、近年のデジタル社会の進展により、消費者を取り巻く状況は深刻で複雑なものになりました。たとえばインターネットでの購入は、リアル店舗での買物に比べ、事業者側の「顔」が見えにくくなりました。また支払い手段がクレジット・電子マネーなど多様化し便利になった一方で、１つの支払いに複数の事業者が絡んでいるケースも多く、決済システムがわかりづらくなっています。デジタル社会では、こうした「見えない、わかりづらい」ことが重なり、トラブルが生じた場合の解決が困難になり、解決に要する時間が長期化しています。また商品を注文したり、困りごとを訴えたりしたい時に、コールセンターなどの仲介が入るケースが多くなり、消費者・事業者両者の距離が以前に比べ遠のいてしまった感があります。

さて、令和７年３月に閣議決定された国の『消費者基本計画』では、消費者が身につけるべき「消費者力」として２つ掲げています。１つめは知識を適切な行動に結びつける力で、具体的には「違和感に気づく力」「きっぱり断る力」「一人で抱えず相談する力」、消費者被害防止・拡大防止に繋げる力です。２つめは、社会的課題の解決のために「働きかける力」です。皆さま御存知の SDGs の 17 の目標の中で、消費者と事業者に関わりの深い「目標 12 つくる責任、つかう責任（持続可能な消費と生産）」では「消費者がより良い消費活動をするためには、事業者が消費者と共創・協働し、商品・サービスの改善等を通じて消費者の行動変容を促し、社会価値の向上を目指す「消費者志向経営」が推進されることが有効」とあります。ここで事業者と消費者が、がっちりと繋がります。「相対」するというより、互いに影響を与えながら、未来に向けてぐるぐると円を描きながら進む密な関係とでも表現すればよいでしょうか。

「消費者志向経営」とは、事業者が、共に未来を担う仲間として消費者を認め、その意見に真摯に耳を傾け、商品の開発やサービスに積極的に活かしていく経営です。当たり前と言えば当たり前ですが、消費者の意向を先取りした商品やサービスを適正な価格で提供すれば売上はアップします。また従業員のひとりひとりも、当然「消費者」として生活している訳ですから、消費者志向経営はその賛同・評価を得やすく、従業員のモチベーションアップによる生産性の向上や、職場定着にも繋がっていきます。

消費者教育の必要性については学習指導要領にも記載されていますが、消費者教育は、個人の生活の充実や消費者被害の防止以外に、「未来の産業を担うこどもたちの育成」の観点からも有効です。消費者教育には多面的な効果があるのです。

消費生活センターは、国の「消費者教育の推進に関する基本的な方針」により「消費者教育の拠点」と位置付けられています。当センターでは、毎年夏休み期間に教職員向けに、授業で活用いただける１週間ほどのセミナー（「先生のための消費者教育お役立ちセミナー」）を開催しており、関心のある講座を選んで参加いただけます。また学校からの要請があれば、専門の講師を授業に派遣できます。また消費者教育に関する疑問や悩みごとなどがありましたら、当センターの「消費者教育コーディネーター」が学校の実情に合わせたアドバイスやご支援をいたします。是非御活用ください。

未来の職業人材育成事業

１　事業の趣旨

地域の活性化や産業振興に貢献できる人材を育成するため、専門高校等の生徒と企業等が連携する職業教育により、専門的な知識や技術を習得させるとともに、商品開発能力や技術開発能力を身に付けさせることを目的としている。

２　各校の取組（抜粋）

⑴　秩父農工科学高校（農業科）

秩父農工科学高校農業科果樹専攻班では、栽培しているブドウを地域の企業と連携して商品開発を行い商品開発を通じて秩父を盛り上げていく活動をしている。今年度は、マスカットベリーＡを使用したワイン造り、シャインマスカットを使用した購買パンの開発、文化祭販売の大福の商品開発を行った。

はちみつの採取

果汁を絞る作業

⑵　児玉高校（機械科）

児玉高校機械科では地域の方が大切に保存してあった人力車を譲り受け、児玉高校の「ちから」で復活させ、こだままつりやこだま千本桜まつりで、活用した。地域の伝統や文化を大切にし、自分たちのものづくりの技術を地域活性化につなげることを目標に、人力車の再生に取り組みました。

人力車再生依頼

修理の様子

⑶　皆野高校（商業科・情報処理科）

皆野高校商業科・情報処理科では皆野・長瀞のオフシーズンを楽しむ観光ツアーを企画・運営した。１２月のツアー実施に向け、５つの企画から実施する２つを選定し、無事に成功させることができた。これまでも地域に根差し、地域の方々のご協力を得ながら活動してきたことが成果につながった。

地域おこし協力隊
による助言

埼玉信用組合
による融資体験

⑷　狭山緑陽高校（総合学科）

狭山緑陽高校では、福祉科の授業において地域と連携した「介護施設実習」での対人援助の深化と、最新の「介護ロボット」を用いた校内実習を両立させている。現場のリアルな課題と先端技術を融合させ、柔軟な発想で福祉の未来を切り拓く、革新的かつ実践的な人材を育成するため、地域と共に歩み、次世代のケアをデザインしている。

移乗実習リフト

おむつ交換実習

３　成果発表会の実施

令和８年２月３日（火）に代表校６校による成果発表会を実施した。専門学科の特性を踏まえた取組を発表し、協力企業等の皆様や県内中学校などに対し、広く情報発信した。

下記のＵＲＬ（高校教育指導課Webページ）に、当日の発表動画を掲載している。

https://www.pref.saitama.lg.jp/f2208/senmonkoukou/mirai-syokugyojinzai.html

４　令和７年度事業実施校（五十音順）

いずみ高校、岩槻商業高校、浦和商業高校、大宮商業高校、春日部工業高校、川越総合高校、久喜工業高校、熊谷商業高校、熊谷農業高校、鴻巣女子高校、越谷総合技術高校、児玉高校、幸手桜高校、狭山経済高校、狭山工業高校、狭山緑陽高校、進修館高校、杉戸農業高校、誠和福祉高校、秩父農工科学高校、常盤高校、戸田翔陽高校、新座総合技術高校、鳩ケ谷高校、羽生実業高校、深谷商業高校、皆野高校 計２７校

収益力のある農業を学ぶ担い手育成プログラム推進事業

１　事業概要

本事業は、現在農業高校の生徒の９割が非農家であり、仕事としての農業を就職・進学先としてイメージできていない生徒が多いこと、また収益力のある農業につながるビジネスプランや農業の効率化等の学習機会を十分に提供できていないことが背景にある。こうした課題を踏まえ、就農や農業分野への就職・進学に魅力を感じられるように、環境を整え、収益力のある農業を学ぶカリキュラムの開発・実践や、生産物販売所での販売を通じて、農業関連産業への人材輩出につなげていくことを目的としている。

本県の単独農業高校である、熊谷農業高校と杉戸農業高校の２校をモデル校として、それぞれに学びを先導するコーディネーターを配置し、実施している。

２　取組内容

(1)　スマート農業や農業経営を学ぶカリキュラムの開発・実践

遠隔監視制御システムの導入や営農支援ツール及び高校版電子図書館をタブレットやスマートフォンに取り入れることで効率的な農業を学ぶことが可能となった。遠隔監視制御システムでは、データを蓄積することにより、災害が発生しやすい状況を予測し、事前に対策を講じることができるなど、リスク管理に関する学習にも役立っている。

また、特別支援学校との連携により、障害のある方も農業に従事できるように支援を学び、人手不足の解消や協働による農福連携に向けた学習も進めている。

(2)　食品製造を学ぶカリキュラムの開発実践

より革新的で実践的なカリキュラムを開発するため、HACCPに基づく衛生管理の学習や製造に関する様々なデータを収集し、分析、活用する取組みを実践している。また、生産物に付加価値をつける商品開発について地元企業と連携を図りながら実施している。

(3)　学習環境の整備

スマート農業、食品製造を学ぶための環境を整備するため、次のような機械等を導入した。

・オートコンバイン
・直進アシスト付き田植え機
・自動操舵システム
・ロールベーラ、ラッピングマシン
・自動餌寄せ機
・超音波画像診断装置
・農薬散布用ドローン（令和８年度予定）
・直進アシスト付きトラクター(令和８年度予定)
・食品実習室内空調整備
・大型冷蔵庫

(4)　コーディネーターの配置

モデル校にそれぞれコーディネーターを配置し、カリキュラムの開発に関する助言や企業連携での支援、進路先となる企業や農業法人の新規開拓の役割を担っていただいている。

(5)　教員研修

カリキュラムを開発するために必要な教員研修を実施している。これまでに県外の先進高校の視察や先端技術を取り入れた研究施設、農福連携を行っている企業等の視察を実施した。また、スマート農業機械の操作に関する研修も専門人材を招いて実施予定である。

果樹園での遠隔監視システムの活用

営農支援ツールでの栽培管理

３　令和８年度に向けて

令和８年度の取組として、①開発したカリキュラムを年間指導計画に取り入れることや学習指導案としてまとめること②モデル校２校から農業関係高校への横展開を図ること③熊谷農業高校での生産物販売所の整備を行うことがある。特に生産物販売所では、生徒の学びの実践の場としてだけでなく、近隣の専門高校等と連携しながら専門高校の魅力発信、農業の情報発信の場として活用を想定している。

これらの取組により、目的である農業関連産業への就職者の増加につながるように埼玉県教育委員会としてモデル校と連携を図りながら実施していく。また農業を通して、地域の賑わいを創出するなど、農業が持つ多面的機能をいかんなく発揮し、農業高校への進学者増加にもつながる取組を推進していく。

工業高校と地域による未来共創プロジェクト事業

１　事業の概要

本事業は、地域における産業界等と高校が有機的に連携することにより、最新技術や企業のＤＸ化の流れに対応した専門教育を実践し、地域産業を担う人材を継続的に育成することを目的とし、令和７年度から工業高校５校で実施している県の事業である。

令和６年度まで、国の「マイスター・ハイスクール事業」を実施していた大宮工業高校を“先導校”、県の東西南北の地域の工業高校４校を“拠点校”とし、事業を推進する。

事業の推進を支援するコーディネーターを配置し、地域における産業界等との持続的な連携体制を確立することにより、産業界等と連携したカリキュラムを研究・開発をしていく。

２　事業を推進する学校と事業目標

【大宮工業高校】（先導校）

マイスター・ハイスクール事業で実践した地域企業との連携を継続するとともに、令和８年度の新校開校に向けた探究活動の連携先を含めた検討を実施する。また、人づくりコンソーシアムを活用した地域企業や、大学などの機関と連携し、課題研究内における教科横断的な学びを継続するとともに、教職員の指導力向上を図る。

【川越工業高校】（西部地域拠点校）

企業の技術者から指導を受け、生徒の技術や知識が向上することで、学科を越えた課題研究企画が誕生し、多様な能力を持つ生徒の育成を目指す。

【川口工業高校】（南部地域拠点校）

ものづくりをとおした世代を越えた交流を通じて、生徒の傾聴力と表現力を高めるとともに、ものづくり業界の魅力を再発見し、地域産業を担う人材を育成する。

【熊谷工業高校】（北部地域拠点校）

地域の方や産業界等が本校の卒業生に期待するスキルを身につけさせるとともに、本校生徒が身につけたスキルを実践する場を地域から提供していたたくことで、地域・学校、それぞれの活性化に繋げる。

【三郷工業技術高校】（東部地域拠点校）

本事業を通じて、地域企業や県内大学、小中学校が連携することで、地域の魅力や可能性を次世代に伝承し、地域で活躍する人材育成を促進する。これらの相乗効果により、本校への入学者増加につなげるとともに、地域社会全体の活性化に貢献していく。

３　令和７年度の実績

⑴　コーディネーターの配置

拠点校の４校コーディネーターは、学校の現状や事業目標に応じて各校が選任した。

学校名	コーディネーター
川越工業高校	経営コンサルタント
川口工業高校	公共職業安定所の元職員
熊谷工業高校	元製造業技術者
三郷工業技術高校	報道関係事業者取締役

⑵　産業界等との連携による授業

課題研究等の授業においては、これまでの産業界等との連携体制を継続しながらも、より深い学びに繋げるため、新しい授業の研究に取組んでいる。

例えば、推進校５校には、最新のロボット技術を学ぶためのAIアシスタントロボット（Temi）を配置しており、企業技術者の指導を受けながら授業で活用するなどカリキュラム開発に繋げている。また、県庁オープンデーでのプログラム体験教室や、鉄道博物館において、展示物を案内するロボットの稼働実験を行うなど、社会貢献活動にも寄与した。

⑶　成果発表会の実施

令和８年１月３０日（金）に推進校５校による成果発表を行った。発表校以外の高校や、これからの産学連携を考える企業２８社の出席があるなど大いに盛り上がりを見せた。

AI ロボットによる
展示物の案内
（鉄道博物館）

５校による成果発表会
（レイボックホール）

４　今後の取組について

今後、拠点校の４校には、大宮工業高校にならって、コンソーシアムを設置し、企業と共に授業を実践するなど、持続的に産業界と人材育成を行う仕組みづくりを構築する。将来的には先導校や拠点校以外の工業高校にも、取組の成果を普及していく計画である。

埼玉県高校生専門資格等取得表彰奨励事業

埼玉県高校生専門資格等取得表彰奨励事業は、埼玉県内の高等学校及び特別支援学校の高等部、中等教育学校の後期課程に在籍する生徒（私立も含む）が、職業資格の取得や技術検定等によって技術・技能の習得に努めることを推奨し、将来、社会で活躍できる産業人の養成を目的として実施している。知事が、表彰の条件を満たした者に専門資格等取得表彰を授与し、その事務については埼玉県産業教育振興会長が委託を受けている。

表彰は、①資格取得によるもの（各資格をポイント化し、２種目以上から合計９ポイント以上を取得した者）と、②全国的な活躍によるもの（全国的な大会等へ出場及び発表し、入賞以上の成績をあげるなど、その内容が優秀な者）の２種類がある。また、前期と後期の２回表彰される機会があり、それぞれ専門資格等取得表彰認定委員会において審議される。

以下に、令和７年度における専門資格等取得表彰認定委員会活動報告、及び認定者数を紹介する。

○第１回埼玉県高校生専門資格等取得表彰認定委員会
内容　議事（１）本事業の実施について
　　（２）表彰区分の見直しについて
○第２回埼玉県高校生専門資格等取得表彰認定委員会
内容　議事（１）資格等取得による表彰の認定
　　（２）全国的な活躍による表彰の認定
○第３回埼玉県高校生専門資格等取得表彰認定委員会（紙上開催）
内容　議事（１）資格等取得による表彰の認定
○第４回埼玉県高校生専門資格等取得表彰認定委員会
内容　議事（１）資格等取得による表彰の認定
　　（２）全国的な活躍による表彰の認定
　　（３）来年度の要項について

令和７年度の表彰者数

学科名	資格取得	全国的活躍
農業科	１６７	0
工業科	５５２	4
商業科	１，３８６	0
家庭科・看護科・福祉科	１０９	0
総合学科	１７９	0
普通科	１７９	0
特別支援	6	2
合計	２，５７８	6

専門高校体験入学報告

１　実施内容

県立の専門高校等３３校において、７，２４２名の中学生、５，５７５名の保護者が、特色ある授業を体験した。実施内容は、以下のとおりである。

○農業
植物バイオテクノロジー、パン作り、中華麺作り、トラクター、野菜収穫、動物ふれあい、フラワーアレンジメント、リボンワーク、木工、寄せ植えなど

○工業
測量、電子工作、ＣＧ、プログラミング、ＣＡＤ、ＶＲ、化学製品、レーザー加工、溶接、３Ｄプリンタ、木材加工、旋盤、製図、ドローン操作など

○商業
マクロ、簿記、原価計算、小切手作成、表計算、マーケティング、プログラミング、ＡＢＣ分析など

○家庭・看護・福祉
看護体験、福祉、車イス体験、点字、血圧測定、調理体験、被服体験、保育体験など

２　実施状況

No.	学校名	実施日	実施回数	参加中学生数
1	熊谷農業高校	7/23.9/20	2	308
2	杉戸農業高校	8/23.10/11	2	391
3	秩父農工科学高校	7/12.8/19.8/20.8/21.11/29	5	565
4	いずみ高校	7/25.8/22.9/13.10/11.11/8	5	849
5	児玉高校	10/4	1	62
6	羽生実業高校	11/8	1	50
7	鳩ヶ谷高校	8/22	1	374
8	川越工業高校	8/19.8/20	2	353
9	川口工業高校 川口工業高校(定時)	7/28	1	44
10	進修館高校	10/4	1	30
11	熊谷工業高校	8/21.8/22.9/27	3	528
12	狭山工業高校	7/23.9/27	2	129
13	大宮工業高校(定時)	7/25	1	12
14	久喜工業高校	8/20(午前).8/20(午後).10/25	3	304
15	春日部工業高校	8/19	1	184
16	新座総合技術高校	9/6	1	248
17	三郷工業技術高校	6/14	1	56
18	越谷総合技術高校	7/31.9/6	2	323
19	深谷商業高校	7/31.9/20.10/18.11/8.12/6	5	245
20	岩槻商業高校	7/30	1	71
21	浦和商業高校	7/30	1	213
22	大宮商業高校	7/31.10/11.11/22.1/10	4	146
23	熊谷商業高校	8/1.8/22.10/5.10/11	4	366
24	所沢商業高校	7/22	1	90
25	狭山経済高校	7/24.7/25.8/21.8/22.11/8.12/25	6	253
26	上尾高校	10/11	1	91
27	鴻巣高校	8/19	1	56
28	八潮南高校	7/26	1	90
29	鴻巣女子高校	8/21	1	118
30	常盤高校	9/20	1	125
31	誠和福祉高校	7/28.10/18.12/13	3	149
32	川越総合高校	7/25.7/26	2	294
33	幸手桜	8/23.10/4	2	125

学校環境緑化コンクール優秀校の作品

一人一人のよさを認め合い、学び合い、高め合い、学び育ち合う学校

秩父市立久那小学校

１５０年の歴史と伝統ある学校で、児童数は３１名の小規模学校である。環境教育計画と教育課程の位置付けが明確化されており、学校、保護者、学校応援団などが積極的に関わり活動している。

【特色のある取組】

①　学校林・果樹園を生かした取組

旧久那中学校の実習地を譲り受け、梅園の古木を伐採し、果樹の苗木を植え果樹園として整備した。現在は梅、柿、ミカンが植樹してあり、生活科や総合的な学習の時間で、収穫体験活動に活用するほか、梅干しや干し柿づくりにも利用している。現在は学校応援団見守り隊を組織化し、環境整備に協力している。また全国植樹祭事業「緑の学び事業」を活用し、果樹園中央に階段の設置等を整備した。またその環境を生かし原木シイタケの栽培に取り組むなど継続して活用している。

果樹園での梅収穫

干し柿づくり

②　かぶくわ子ども園の取組

かぶくわ子ども園では果樹園内の落ち葉を使用し、カブトムシやクワガタの自生循環を目指し、取り組んでいる。１・２年生の生活科の授業では実際に掘り起こし、幼虫やさなぎの観察を行っている。近隣幼稚園の幼児と協力して落ち葉集めを行うなど、協働した取り組みも実践している。

幼稚園児との交流

幼虫の観察

③　旧プールを活用したビオトープの取組

水泳学習の地域移行に伴い、使用しなくなった学校プールを令和５年９月に「久那小ビオトープ」として活用を始めた。現在は様々な水生生物を確認でき、授業において活用している。また、古代蓮の種子や株を譲り受け、育成に取り組むことで、文化継承の理解にもつなげている。

緑とあいさつのあふれる学校を目指して

加須市立昭和中学校

学校緑化活動については、学校緑化推進委員会が小部会を作り横の連携を取りながら進めている。特別活動の取組みでも生徒が中心となり活動し、保護者や地域を含めた活動を実践している。

【特色のある取組】

①　緑化・環境教育を意識した学校緑化推進委員会と小部会の取組

学校緑化推進委員会が中心となり小部会を組織し、連携を図りながら教育活動を実践している。「緑化計画担当部会」が全体計画の作成や生徒委員会の指導を行う。「教科領域部会」が緑化計画に基づき、環境を生かした授業づくりを実践し、実践事例としてまとめている。「社会貢献部会」では年間計画に基づき、市や地域ボランティアと生徒をつなぎ、クリーンサンタ（地域清掃ボランティア活動）を実施している。

特に「教科領域部会」では、各教科に環境を題材にした授業に取り組むよう指導しており、英語科では様々な環境問題を題材とした教材を使用し、ＳＤＧｓとも関連づけた授業を展開している。数学科では縮尺や重さを求める単元で、学校の樹木や落ち葉を活用した授業を展開している。

落ち葉を使用した数学の学習

樹木マップ作成

②　生徒会や委員会が中心となった地域と連携した緑化の取組

環境委員会では定期的な除草や落ち葉はき、花壇の整備を行い、過ごしやすい環境を創出している。生徒会では地域と協力し、「ダストバスターズ」・「クリーンサンタ」といったボランティア活動を実践し、地域の環境維持に努めており、地域から感謝されている。また「あいさつロード」の整備では、季節の草花を植えたプランターにプラカードを設置し、良好な人間関係を結ぶために必要なスキルを育てるよう緑化と絡めて工夫している。特別支援学級では率先してみどりに触れる時間を作り、作成した樹木プレートは学校の緑化活動に貢献している。

産業教育に関する表彰

令和７年度　産業教育に関する表彰者

（敬称略、学年は受賞時）

１　埼玉県学校環境緑化コンクール入賞校

令和７年９月２日(火)、３日(水)審査

○小学校の部

優秀校　秩父市立久那小学校
（全日本学校関係緑化コンクールへ推薦）
〃　行田市立南河原小学校
〃　越谷市立桜井南小学校
〃　上尾市立中央小学校

優良校　さいたま市立浦和大里小学校
〃　さいたま市立中島小学校
〃　松伏町立金杉小学校
〃　美里町立東児玉小学校

良好校　さいたま市立辻南小学校
〃　熊谷市立玉井小学校
〃　久喜市立青毛小学校

以上　１１校

○中学校の部

優秀校　加須市立昭和中学校
（全日本学校関係緑化コンクールへ推薦）

優良校　寄居町立城南中学校
〃　三郷市立栄中学校

良好校　久喜市立栗橋西中学校
〃　秩父市立荒川中学校

以上　５校

２　第６６回埼玉県児童・生徒発明創意くふう展　入賞者

会期　令和７年１０月２４日（金）
～１０月２５日（土）

場所　新都心ビジネス交流プラザ

◎埼玉県知事賞

日向　一心　本庄市立本庄南中学校
(作品名)冠水DANGERポール

◎埼玉県教育委員会教育長賞

土崎　真滉　東松山市立新明小学校
(作品名)落ち葉と砂を分けられるちりとり

竹内　心春　八潮市立八條小学校
(作品名)目で見て分かる熱中症対策

大島　彩寧　伊奈町立南中学校
(作品名) ストレスフリーなシャンプーボトル

岡田　杏　草加市立両新田中学校
(作品名) 仕切りを変えられるブックシェルフ

◎埼玉県産業教育振興会長賞

前野　康太　越生町立梅園小学校
(作品名) ぼうさいマクラ

宮原　ひかり　秩父市立大田小学校
(作品名) わたしのへやのさいがい時おたすけバッグ

村田　彩実　加須市立三俣小学校
(作品名) もうこぼさない！つめかえ楽々そう置

中川　智仁　さいたま市立植竹中学校
(作品名) 車いすかさ入れ

安蘇　涼平　草加市立青柳中学校
(作品名) 寝かしつけミトン

根本　竜希　朝霞市立朝霞台四中学校
(作品名) イス倒れんぞう

◎埼玉県産業労働部長賞

木村　仁結　幸手市立吉田小学校

石黒　和志　蕨市立東中学校

◎埼玉県発明協会会長賞

井上　桃花　坂戸市立坂戸小学校

奥谷　藍　鶴ヶ島市立栄小学校

増田　莉帆　白岡市立篠津中学校

影山　朔　春日部市立春日部南中学校

◎NHKさいたま放送局長賞

吉田　奏斗　狭山市立山王中学校

◎テレ玉賞

小峰　輪　ふじみ野市立花の木中学校

◎埼玉新聞社賞

山内　優明　久喜市立久喜東小学校

◎埼玉県商工会議所連合会会長賞

小堺　陽　さいたま市立春里中学校

◎埼玉県商工会連合会会長賞

黒木　愛記　和光市立白子小学校

◎埼玉県中小企業団体中央会会長賞

生澤　晴　さいたま市立大宮東小学校

◎埼玉県経営者協会会長賞

永野　杏奈　川口市立元郷小学校

◎埼玉経済同友会賞

田川　壱善　和光市立第五小学校

◎埼玉県中小企業家同友会賞

堀江　星花　さいたま市立桜木中学校

◎埼玉県小学校家庭科教育研究会長賞
青野　真尋　さいたま市立大久保東小学校
塚田　瑞央　飯能市立富士見小学校
竹本　秋耶　狭山市立柏原小学校
日向　咲心　本庄市立中央小学校
韮塚　菜月　深谷市立幡羅小学校
加藤　志野　寄居町立男衾小学校
梅垣　陽真　三郷市立前間小学校
薮田　桂士　さいたま市少年少女発明クラブ
◎埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会長賞
音川　暖雲　川口市立十二月田中学校
堀田　結愛　川口市立十二月田中学校
齊藤　有真　桶川市立桶川東中学校
藤倉　大輝　川越市立野田中学校
武山　旺介　川越市立砂中学校
矢島　由希翔　加須市立騎西中学校
尾坐　紗英子　八潮市立八幡中学校
大宅　誠人　さいたま市少年少女発明クラブ
◎埼玉県工業教育研究会長賞
永瀬　業人　富士見市立諏訪小学校
髙橋　心那　狭山市立入間野小学校
安田　理咲　川越市立鯨井中学校
新井　悠友　熊谷市立吉岡中学校
奥村　優磨　越谷市立大袋中学校
◎埼玉県発明協会特別賞
大野　壮右　桶川市立朝日小学校
鈴木　蔵之介　川越市立鯨井中学校

３　産業教育関係優良卒業生に対する表彰

○産業教育振興中央会
国公立高校６５人　私立高校７人
○埼玉県産業教育振興会
小学校６５９人　中学校４０５人
国公立高校１３４人　私立高校７人
＜小中学校の支部別内訳＞

支部名	小学校	中学校	支部計
川口支部	50	28	78
さいたま支部	90	62	152
北足立支部	140	69	209
入間支部	124	89	213
比企支部	11	17	28
秩父支部	5	12	17
児玉支部	22	8	30
大里支部	49	30	79
北埼玉支部	24	18	42
南埼玉支部	100	54	154
北葛支部	44	18	62
合計	659	405	1,064

４　産業教育功労者表彰

令和７年度産業教育功労者として、次の方々を決定し、令和８年度理事会兼総会（令和８年６月１２日(金)）において、表彰を行います。

【公益財団法人　産業教育振興中央会関係】
県立熊谷工業高等学校長　持田　雄一

【埼玉県産業教育振興会関係】
◇本会表彰規程第２条第１項及び第４項による表彰
県立秩父農工科学高等学校長　服部　修
県立川越総合高等学校長　仲山　嘉彦
県立いずみ高等学校長　小林　幹弥
県立いずみ高等学校教諭　阿讃坊　辰也
県立羽生実業高等学校主任実習助手　増田　利久
県立熊谷工業高等学校長　荻原　康之
県立狭山工業高等学校主任実習助手　大橋　辰也
県立久喜工業高等学校教諭　折原　慶作
県立久喜工業高等学校主任実習助手　小林　輝行
県立川越工業高等学校教諭　田村　一夫
県立新座総合技術高等学校教諭　大場　賢一
県立新座総合技術高等学校教諭　青木　邦眞
県立新座総合技術高等学校教諭　大石　健路
県立深谷商業高等学校長　新井　秀明
県立白岡高等学校長　須賀　孝慶
県立岩槻商業高等学校長　藤森　雅彦
県立大宮商業高等学校長　須藤　崇夫
川口市教育委員会教育長　井上　清之
さいたま市大谷口中学校長　小林　正樹

◇本会表彰規程第２条第３項による表彰
元AGS株式会社
エグゼクティブアドバイザー　前田　稔

小学校家庭科教育研究活動報告

埼玉県小学校家庭科教育研究会

今年度は、さいたま市を研究指定地区とし、令和７年１１月２６日（水）に、第５６回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会をさいたま市立与野本町小学校において開催しました。

１　総会並びに役員研修会

令和７年６月６日（金）With Youさいたま

(1)令和６年度事業等報告・令和７年度事業計画

(2)講演会　埼玉県教育局市町村支援部

義務教育指導課　指導主事　山﨑　元美　先生

「これからの家庭科教育について」

２　夏季研修会

令和７年８月８日（金）With Youさいたま

(1)４部会・専門委員会の活動

(2)指定地区の大会研究経過報告

(3)講演会　埼玉県総合教育センター

指導主事　石川　万記子　先生

３　令和７年度第５６回埼玉県小学校家庭科教育研究大会プレ授業研究協議会

令和７年９月１６日（火）

第６学年　「こんだてを工夫して」

さいたま市立鈴谷小学校

授業者　６年１組　宮澤　由美　先生

指導　深谷市立豊里小学校校長

棚村　かおり　先生

さいたま市教育委員会指導主事

小林　由美恵　先生

４　地区別授業研究会

令和７年１０月２３日（木）　本庄市立旭小学校

令和７年１２月　２日（火）　鴻巣市立下忍小学校

令和７年１２月　９日（火）　小川町立みどりが丘小学校

令和７年１２月１０日（水）　加須市立三俣小学校

５　発明創意くふう展

令和７年１０月２４日（金）・２５日（土）

新都心ビジネス交流プラザ

６　会報の発行

研究集録第５６号「埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動状況」に掲載

７　研究集録の刊行

第５６集の刊行

８　第５６回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会

令和７年１１月２６日（水）

さいたま市立与野本町小学校

＜研究主題・副主題＞

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育～学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成～」

＜研究の視点＞

視点１　実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫

視点２　主体的･対話的で深い学びの実現に向けた授業展開の工夫

視点３　児童が学びを自覚し、成長を実感する評価の工夫

視点４　家庭･地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫

(1)記念講演

「小学校家庭科における資質・能力の育成に向けて」

文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官　国立教育政策研究所教育課程研究センター開発部教育課程調査官

熊谷　有紀子　先生

(2)研究授業

第６学年「こんだてを工夫して」

授業者　鈴木　未来　先生

「家族のために、自分で作る昼食のこんだてを考えよう」という本時のねらいのもと、個々の問題を見出だし、課題を設定した。さらにその課題を解決するために、児童が互いにこんだてを見合い、よりよいこんだてを作成する授業展開であった。児童は、タブレットを用いながら自分のこんだてをバランスや彩り、旬の食材かなどアドバイスをしあいながらこんだてを作成することができた。

(3)研究協議会

指導者　埼玉県

教育局市町村支援部

義務教育指導課　指導主事

山﨑　元美　先生

９　役員研修会

令和８年２月１７日（火）With Youさいたま

(1)令和７年度事業等報告・令和８年度事業計画

(2)令和８年度指定地区研究概要

西部地区（比企地区）

(3)組織、各部・委員会の活動内容の見直し

中学校技術･家庭科教育研究活動報告

埼玉県中学校･技術家庭科教育研究会

関東甲信越地区中学校技術･家庭科研究大会埼玉大会の開催を１年後に控え、大会実施組織の整備と研究の深化を図り、教員研究発表会でその成果を県内各中学校と共有した。ハイブリット会議と参集型会議を内容等に応じて併用しながら、教科指導充実を推進した。

県･全国の創造ものづくり教育フェア運営等については参集型を基本とした運営を目指し、生徒が活躍する場と技術･家庭科教育の成果発表の機会を設けることができた。全日本中学校技術･家庭科研究会主催の第２５回全国中学生創造ものづくり教育フェアでは、創造アイデアロボットコンテストを主管した。

１　専門委員会

(1)第１回専門委員会
令和７年６月１２日(木) 県民活動総合センター
○令和８年度研究概要の説明・共通理解
○今後の組織的な研究推進に向けて
○指導助言（各分科会地区別指導者）

(2)第２回専門委員会
令和７年８月２２日(金) 県民活動総合センター
○埼玉大会準備・各部会研究推進に向けて
○各分科会の研究実践発表(ブース形式)
○講演会 文科省初中局 教科調査官
国研教育課程課 教育課程調査官
熊谷 有紀子　先生
○フェア運営打合せ

(3)第３回専門委員会
令和７年１２月９日(火) 県民活動総合センター
○研究成果の確認と課題解決に向けて
○教員研究発表会の開催に向けた準備
○指導助言
県教育局市町村支援部
義務教育指導課 指導主事
村越　隆　先生
山﨑　元美　先生
(他　県立総合教育センター 指導主事)

(4)教員研究発表会
令和８年２月２０日(金) 県民活動総合センター
○全体研究提案・各部会研究提案
○指導講評（義務教育指導課 指導主事）
○講演会 文科省初中局 教科調査官
国研教育課程課 教育課程調査官
渡邊　茂一　先生

２　理事・支部長研修会、各種大会

(1) 支部代表者会兼理事研修会(総会)
令和７年５月９日(金) 県民活動総合センター
○理事会・総会
○埼玉大会に向けた研究の進捗状況確認

(2)全日中理事研修会
令和７年５月３１日(土) オンライン
○令和６年度活動報告・決算報告
○令和７年度活動計画案・予算案審議　他

(3)関ブロ山梨大会理事研修会
令和７年６月１９日(木) オンライン
○大会運営の概要・研究中間報告
○指導助言（国研 教科調査官）　他

(4)第２回支部長研修会
令和７年９月１２日(金) 県民活動総合センター
○関ブロ山梨大会への参加・全体会提案
○各種フェアの運営・参加について　他

(5) 関ブロ山梨大会
令和７年１０月２８日(火) 理事会･全体会
令和７年１０月２９日(水) 分科会 県内４会場

(6) 関ブロ埼玉大会理事研修会
令和８年２月２４日(火) オンライン
○山梨大会報告
○今後のフェア運営・研究会組織について
○埼玉大会運営の概要・研究中間報告
○指導助言（国研 教科調査官）

(7) 第３回支部長研修会
令和８年３月１０日(火) 県民活動総合センター
○令和７年度事業・専門委員会報告
○令和８年度事業計画案・組織案審議　他

３　SAITAMA創造ものづくり教育フェア

令和７年１１月７日(金) 県民活動総合センター
○生徒研究発表会、生徒作品コンクール
令和７年１１月７日(金) 吉川市総合体育館
○ 埼玉県ロボットチャンピオンシップ大会
令和７年１１月７日(金) 川越市霞ケ関東中学校
○あなたのためのおべんとうコンクール
令和７年１１月７日(金) 川口市立幸並中学校
○豊かな生活を創るアイデアバックコンクール
令和７年１１月１３日(木) イオンレイクタウンmori
○創造アイデアロボットコンテスト
全国中学生大会埼玉県予選会

４　創造アイデアロボットコンテスト

全国中学生大会関東甲信越地区予選会（千葉）
令和７年１２月７日(日) 柏市立柏中学校

５　第２５回全国中学生創造ものづくり教育フェア

創造アイデアロボットコンテスト
令和８年１月３１日(土) 東京都立六郷工科高校

支部だより（11支部）

川口支部

⑴　川口支部総会　令和７年７月（オンライン開催）
・令和６年度事業報告
・決算報告及び監査報告　・役員改選
・令和７年度事業計画案　・令和７年度予算案
・埼玉県産業教育振興会　川口支部会則

⑵　川口市児童・生徒・教職員発明創意工夫展
令和７年９月１７日(水)～２４日(水)
川口市立南平文化会館
・小学校１８８点、中学校１１３点の出品
・県展出品（小学校５点　中学校４点）
・特選受賞者の発表会を実施（９月２４日）

（一般公開）

（発表会）

⑶　埼玉県児童・生徒発明創意くふう展
【入賞３点】
・埼玉県経営者協会会長賞（１点）
（全国展推薦作品）
・埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会長小（２点）

⑷　産業教育振興会小・中学校優良卒業生表彰
・推薦人数（小学校５０名、中学校２８名）
（事務局　西牧　孝子）

さいたま支部

⑴　さいたま支部総会
令和７年７月１日(火) さいたま市立春野中学校
・令和６年度事業報告及び決算・監査報告
・令和６年度産業教育研究委嘱校研究報告
浦和大里小・白幡中・桜山中・大宮国際中等
・令和７年度事業計画及び予算計画、役員改選
・令和７年度産業教育研究委嘱状交付
泰平中・春野中・桜山中・浦和中

⑵　学校緑化コンクール
・第１次審査　令和７年７月２日（水）
審査校：３校　推薦校：３校
・第２次審査結果
優良：浦和大里小、中島小　良好校：辻南小

⑶　市児童・生徒発明創意くふう展
令和７年９月１３日（土）・１４日（日）
さいたま市青少年宇宙科学館
・市発明創意くふう展出品数
（小学校１７６作品、中学校８８作品）
・県展出品数（小学校１０作品、中学校１１作品）
・県展結果
（埼玉県商工会議所連合会会長賞、埼玉県中小企業団体中央会会長賞、埼玉県中小企業家同友会賞、埼玉県産業教育振興会長賞、埼玉県小学校家庭科教育研究会長賞）

⑷　産業教育振興会小・中学校優良卒業生表彰
・推薦人数
（小学校９０名、中学校・中等・特別支援学校６２名）
（事務局：さいたま市立春野中学校　永谷和俊）

北足立支部

⑴　常任理事会　令和７年５月１３日（火）
上尾高校において、令和７年度総会資料の検討、支部だより編集方針、支部会則を確認した。

⑵　北足立支部総会　令和７年５月３０日（金）
上尾高校において、令和６年度事業・会計報告等を行い、令和７年度支部役員の決定、事業計画案、予算案が承認された。

⑶　講演会　令和７年５月３０日（金）総会終了後
演題：「専門高校の現状」
講師：埼玉県教育局県立学校部
高校教育指導課
指導主事　富田　訓吉　先生

⑷　「産振北足立支部だより」第４７号発刊　令和７年５月

⑸　学校環境緑化コンクール　令和７年７月２２日（火）
北足立支部から小学校を１校推薦した。

⑹　児童・生徒発明創意くふう展　令和７年９月２４日（水）
新都心ビジネス交流プラザにおいて北足立支部展を開催した。小学校４６点、中学校４５点の出品があったうち、小学校１４点、中学校１３点を県展へ出品した。そのうち８点（小学校３点、中学校５点）が入賞した。

⑺　産業教育振興会小・中学校優良卒業生表彰
小学校１４０校、中学校６９校から申請があり、計２０９名の児童生徒が表彰された。

⑻　常任理事会　令和８年１月２７日（火）
令和８年度北足立支部総会に向け、役員、事業・会務計画及び予算等について審議した。
（事務局　中阪　裕明）

入間支部

⑴　入間地区小中学校児童生徒発明創意くふう展
入間地区小中学校児童生徒発明創意くふう展には小学校１６９点、中学校１９６点の出展があった。審査の結果、県展には、小学校１６点、中学校１９点の作品を出展した。

⑵ 小中学校優良卒業生表彰
西部教育事務所、各市町教育委員会の協力を得て、小学生１２５人、中学生９６人の推薦を行った。

（事務局　落合　弘樹）

比企支部

⑴ 支部総会　令和７年６月２７日（金）
国立女性教育会館にて令和６年度事業報告及び会計報告、令和７年度の事業計画及び予算審議等を行った。

⑵ 比企地区小学校家庭科、中学校技術・家庭科主任研修会　令和７年６月２７日（金）
国立女性教育会館にて、主任研修会を実施した。

⑶ 比企地区発明創意くふう展
令和７年９月１２日（金）に野本市民活動センターで行われ、県展に小学校４点、中学校３点の作品を選出しました。そのうち１点が全国大会に推薦された。

⑷ 授業研究会・実技研修会
・小学校家庭科教育研究会授業研究会
小川町立みどりが丘小学校にて実施し、指導法などについて研究協議が行われた。
・中学校 技術・家庭科実技研修会
令和７年７月２９日（火）に滑川町立滑川中学校にて実施し、指導法などについて研究協議が行われた。

⑸ 産業教育小・中学校優良卒業生表彰
小学校１１名、中学校１７名を推薦した。

⑹ 広報誌「産振比企」５５号の発行

（事務局　野口　大輔）

秩父支部

⑴ 支部総会　令和７年６月１８日（水）
令和６年度の事業報告及び会計報告、令和７年度の事業計画案及び予算案等の審議をし、承認された。

⑵ 学校環境緑化コンクール
令和７年７月２１日（月）
地区審査を行い、秩父市立久那小学校、秩父市立荒川中学校を県審査に推薦しました。審査の結果、久那小学校が優秀校として全日本学校緑化コンクールに推薦、荒川中学校が良好校に選ばれた。

⑶ 発明創意工夫展　令和７年９月１２日（金）
荒川農村改良センターにて小中合同で開催した。
地区展出品数：小学校５７点・中学校８５点
県展出品数　：小学校３点・中学校３点
県入賞：埼玉県産業教育振興会長賞
作品名　「わたしのへやのさいがい時おたすけバック」秩父市立太田小学校　３年　宮原ひかり

⑷ 小学校家庭科教育研修会
８月　秩父銘仙館にて研修会を実施。

⑸ 中学校技術家庭科・家庭科教育研究会
５月・３月　研究協議会を実施した。

⑹ 埼玉県及び秩父支部産業教育振興会
優良卒業生表彰者
県表彰　：小学校５名・中学校１２名
支部表彰：小学校５名・中学校１２名
高等学校　１１名
特別支援学校　１名

（事務局　斎藤　晴樹）

児玉支部

⑴ 支部総会　令和７年７月４日（金）
本庄市児玉文化会館（セルディ）において開催し、令和６年度事業報告、決算報告、令和７年度事業計画、予算案について審議した。
令和７年度は、賛助会員５４の団体や企業から４３７口の協賛をいただいた。

⑵ 産業教育担当者研修会　令和７年７月４日（金）
支部総会後に小学校部会と中学校部会に分かれ、担当者会議を実施した。

⑶ 学校環境緑化コンクール　令和７年７月１４日（月）
小学校２校、中学校１校の審査を行い、美里町立東児玉小学校を代表として県審査に推薦した。県審査において、「埼玉県学校環境緑化コンクール優良校」を受賞した。

⑷ 児童生徒発明創意くふう展　令和７年９月１３日（土）
本庄市立本庄東小学校で児玉支部審査会を開催（小学校１５０点、中学校５４点出品）し、小・中学校ともに３点を埼玉県児童生徒発明創意くふう展に出展した。本庄市立本庄南中学校２年生の生徒が「埼玉県知事賞」、本庄市立中央小学校２年生の児童が「埼玉県小学校家庭科教育研究会長賞」を受賞した。

⑸ 産業教育小・中学校優良卒業生表彰
小学校２２名、中学校８名を推薦した。

（事務局　根岸　伸行）

大里支部

⑴ 支部総会　令和７年７月７日（月）
総会を熊谷市スポーツ文化村「くまぴあ」において開催した。総会後には、熊谷市立藤見中学校教諭　横田　真澄 先生による講演会を行った。

⑵ 学校緑化コンクール
寄居町立城南中、折原小、熊谷市立大原中、玉井小の４校が参加しました。県審査において、中学校の部で城南中が優良校、小学校の部で玉井小が良好校に選出された。

⑶ 実技研修会
小学校家庭科が令和７年８月４日（月）に深谷市立常盤小、中学校が技術分野・家庭分野ともに令和７年８月２０日（水）に熊谷市スポーツ文化村「くまぴあ」で実施した。

⑷ 児童生徒発明創意くふう展・研究発表会
令和７年９月１２日（金）に熊谷市妻沼中央公民館にて作品審査会を行い、小学校６点、中学校６点を埼玉県児童･生徒発明創意くふう展に出品した。埼玉県生徒研究発表会に熊谷市立富士見中学校が選ばれた。

⑸ 授業研究会
小学校家庭科が令和７年１１月１８日（火）に深谷市立八基小、中学校（技術）が令和７年１１月２０日（木）に深谷市立花園中、中学校（家庭）が令和８年３月１７日（火）に深谷市立南中で実施した。どの授業研究においても熱心な研究協議が行われた。

⑹ 産業教育振興会小中学校優良卒業生
小学校４９名、中学校３０名が推薦された。

（事務局　森　香明）

北埼玉支部

⑴ 理事研究協議会及び総会を、羽生実業高校会議室において開催する予定だったが、感染症予防の観点から書類審議となった。書面において令和６年度の事業報告・決算報告・監査報告の承認ならびに令和７年度の役員（案）・事業（案）・学校環境緑化コンクール・児童・生徒作品展について審議され承認された。

⑵ 学校環境緑化コンクールを令和７年７月２９日（火）に小・中学校５校を訪問し審査した。結果、加須市立昭和中学校と行田市立南河原小学校を県大会に推薦した。

⑶ 北埼玉支部児童・生徒作品審査会が令和７年９月１８日（木）にワークヒルズ羽生で行われ、小学生５名、中学生３名を県作品展に推薦した。

⑷ 小・中学校優良卒業生に対する表彰を埼玉県に推薦した。小学校２４名、中学校１８名を推薦した。

（事務局　長島　肇）

南埼玉支部

⑴ 第１回理事・専門委員会合同協議会並びに総会
令和７年６月２５日（水）県立春日部工業高校
・令和６年度事業報告並びに会計の報告、令和７年度事業計画並びに予算の審議等を行った。

⑵ 学校環境緑化コンクール　令和７年７月２２日（火）
・小学校５校、中学校３校の計８校を審査し、越谷市立桜井南小学校、久喜市立青毛小学校、久喜市立栗橋西中学校の３校を支部代表として選出し、県審査に推薦した。

⑶ 第２回理事・専門委員会合同研究協議会
令和７年８月２０日（水）県立春日部工業高校
・支部発明創意くふう展について協議、学校緑化コンクールの報告等を行った。

⑷ 支部児童・生徒発明創意くふう展、生徒研究発表会
令和７年９月１９日（金）春日部市視聴覚センター
・作品の部では、小学校３０点、中学校２９点を審査し、小・中学校ともに１０点を県展に推薦した。研究発表の部では、中学校６点の中から１点を県発表会に推薦した。

⑸ 産業教育振興会小・中学校優良卒業生表彰
・小学校（小中学校前期含）１００名、中学校（小中学校後期含）５４名を推薦した。

（事務局　齋藤　潤）

北葛支部

⑴ 総会・理事会並びに研究協議会第１回実施委員会（６月）
・令和６年度事業報告、会計報告、監査報告
・令和７年度役員、事業計画、予算、研究集録配布について

⑵ 学校環境緑化コンクール支部審査（７月）
・吉川市立金杉小学校、三郷市立栄中学校を県審査へ推薦

⑶ 児童生徒発明創意くふう展
令和７年９月２４日（水）杉戸農業高等学校
・地区展出品数
小学校１５点
中学校１６点
・小･中学校４点ずつ選出
県展へ推薦

⑷ 管内視察研修会、工業系の実習等の授業見学と協議を実施
令和７年１１月１８日（火）幸手桜高等学校

⑸ 教員研究発表会並びに研究協議会
令和８年１月２７日（火）三郷市立早稲田中学校
令和８年１月２９日（木）杉戸町立高野台小学校
研究授業と研究協議を実施

⑹ 小･中学校優良児童生徒の推薦、表彰状の交付
（小学校４４校・中学校２０校）

⑺ 第２回実施委員会
令和８年２月１２日（木）杉戸農業高等学校
・令和７年度事業報告、会計中間報告
・令和８年度事業計画（案）
・研究集録第５５号編集について

⑻ 小・中学校優良生徒に対する表彰状の交付
令和８年２月１２日（木）

⑼ 研究集録第５５号発刊　令和８年３月３１日（火）

（事務局 黒沢　俊徳）

埼玉県産業教育フェア

【主催】
埼玉県教育委員会　埼玉県産業教育振興会

【開催日・会場】
北部：令和７年１０月　４日（土）イオン熊谷店
東部：令和７年１０月２５日（土）イオンレイクタウン
西部：令和７年１１月　１日（土）丸広百貨店川越店
南部：令和７年１１月１５日（土）イオンモール浦和美園店

【スローガン】
彩（いろどり）　輪を架け繋ぎ　未来を育む

【目的】
専門高校等の生徒による学習成果の発表等を通じ、生徒の創造性や課題解決能力等の向上を図ると共に、産業教育の魅力と役割を広く県民に紹介する。

【開催方法】
地区別の分散開催とＷｅｂによるハイブリット開催

【チラシ・ポスター】

チラシ・ポスター原画
新座総合技術高校　デザイン科
（左）３年　鬼澤　蘭
（右）３年　米本　凛

【実施内容】
１　各会場の参加高校一覧
（１）北部
熊谷農業・秩父農工科学・児玉・熊谷工業・
深谷商業・熊谷商業・皆野・鴻巣女子・小鹿野
（２）東部
杉戸農業・春日部工業・三郷工業技術・八潮南・
誠和福祉
（３）西部
川越工業・新座総合技術・所沢商業・狭山経済・
常盤・川越総合・狭山緑陽
（４）南部
いずみ・鳩ケ谷・川口工業・浦和工業
越谷総合技術・岩槻商業・浦和商業・大宮商業・
上尾・戸田翔陽

２　生徒実行委員会活動報告
代表生徒１９名により、PR活動や当日の運営を実施

埼玉フェアでのＰＲ活動

企画の検討・立案

ＣＭ撮影

コバトンの誘導

３　開催内容
（１）体験型イベント
専門高校生が日頃の学習成果を体験イベントを通じて紹介（２３校３９ブース）

北部　鴻巣女子高校
ハロウィンのオーナメントをつくろう

東部　八潮南高校
メッセージカード・名刺作成

西部　川越総合高校
ハーブ葉っぱのスタンプ

南部　浦和工業高校
３Ｄメタルパズル！

（２）学習成果物の販売

生徒が育てた農作物や企業と連携して開発した商品を販売（９校１３ブース）

北部　熊谷農業高校
くまのうアイス

北部　皆野高校
しかコロぱん

東部　杉戸農業高校
各種野菜

南部　岩槻商業高校
ひなどら

南部　アイデア弁当

令和６年度アイデア弁当コンテスト教育長賞受賞作品を新座総合技術高校の生徒がレシピを考え、企業と連携し、商品化して南部会場等にて販売。

（３）各種コンテスト

アイデアロボットコンテスト

リテールマーケティング・コンテスト

アイデア弁当コンテスト
教育長賞受賞作品

夢の電車
イラストコンテスト
教育長賞受賞作品

（４）ホームページ・Instagram

・生徒実践発表動画・作品展示の掲載
　農業部会　熊谷農業
　工業部会　新座総合技術高校
　商業部会　皆野高校
　家庭・看護・福祉部会　越谷総合技術高校
　　鴻巣女子高校

・地域連携動画の紹介

令和６年度「未来の職業人材育成事業」における各専門高校の取組動画を紹介

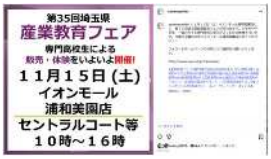
・Instagram

産業教育フェアの告知や各校の取組を紹介

熊谷農業高校
「明るい養豚業を目指して」

鴻巣女子高校
「ファッションショー」

川越総合高校
「タマシャモプロジェクト」



Instagram 投稿画像

４　成果

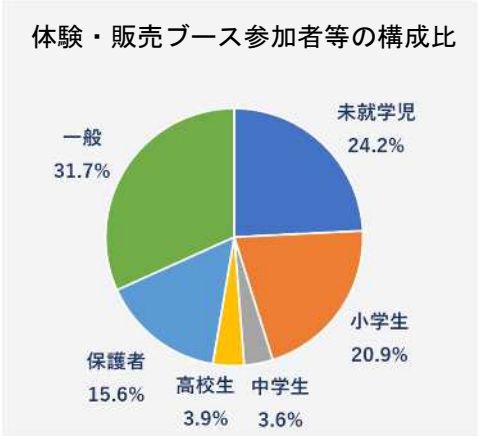
（１）参加者数

・体験・販売ブース参加者等の延べ人数

	北	東	西	南	計
未就学児	94	121	77	414	706
小学生	107	109	101	293	610
中学生	34	23	25	23	105
高校生	29	13	39	33	114
保護者	85	176	63	130	454
一般	470	118	101	236	925
合計	819	560	406	1,129	2,914

・スタンプラリー参加者数

北	東	西	南	計
607	578	540	621	2,346



（２）ホームページアクセス数等

・ホームページ　48,075
・Instagram　32,221

令和7年度　本会事業報告

１　会議の開催

⑴　会計監査
令和７年４月２１日(月) 商工会議所連合会他

⑵　第１回常任理事会
産業教育功労者表彰式、理事会兼総会
令和７年６月９日(月) 埼玉会館
・令和６年度事業報告及び会計報告
・令和７年度事業計画及び予算案審議等
・令和６年度産業教育功労者表彰

⑶　第２回常任理事会
令和７年７月８日(火) オンライン
本会及び産業教育振興中央会の産業教育功労者の選考等

２　講演会（専門高校長会と共催）

実施せず。

３　進路指導の推進

令和７年６月～令和８年２月
専門高校への入学促進及び中高連絡に対する援助

４　「埼玉産業教育」（会報）の発刊

第７８号 令和８年３月
Ａ４判　１６ページ PDFで作成

５　表彰事業（別頁詳細有り）

⑴　令和７年度産業教育功労者の表彰等
（令和８年度理事会兼総会で表彰）
◇産業教育振興中央会表彰　　１人
◇本会表彰　　２０人
計２１人

⑵　令和７年度産業教育優良卒業生の表彰
◇産業教育振興中央会表彰　　７２人
◇本会表彰　　１，２０５人
計１，２７７人

⑶　令和７年度埼玉県高校生専門資格等取得表彰奨励事業による表彰
◇資格等取得による表彰　２，５７８人
◇全国的な活躍による表彰　　６人
計２，５８４人

６　コンクール、産業教育フェア等の実施

⑴　令和７年度学校環境緑化コンクール
◇第一次審査（支部審査）
７月に、支部毎に実施
◇第二次審査（県審査）
（埼玉県緑化推進委員会定時総会にて表彰）
優秀校　５校、優良校　６校
良好校　５校　　計　１６校

⑵　第６６回埼玉県児童・生徒発明創意くふう展
期日　令和７年１０月２４日(金)
～令和７年１０月２５日(土)
会場　新都心ビジネス交流プラザ
主催　埼玉県、埼玉県教育委員会、
埼玉県産業教育振興会、
(一社)埼玉県発明協会
出品点数　小学校８０作品　中学校７９作品
本会会長賞　６点（別頁詳細有り）

⑶　第３５回埼玉県産業教育フェア
（県内４地域による分散開催）
会場・期日
イオン熊谷店　令和７年１０月　４日(土)
ｲｵﾝﾚｲｸﾀｳﾝ　令和７年１０月２５日(土)
丸広百貨店川越店　令和７年１１月　１日(土)
ｲｵﾝﾓｰﾙ浦和美園店　令和７年１１月１５日(土)
HP掲載　https://www2.spec.ed.jp/krk/sanfair/
内　容　１４・１５ページ参照

７　支部振興事業

各支部において事業を実施。
普通賛助会費の３分の２を、支部振興費として還元。

８　産業教育振興中央会関係事項

⑴　令和７年度全国産業教育振興会連絡協議会役員会、令和７年度全国産業教育振興会連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議
全商会館（参集型及びオンライン開催）
令和７年５月２９日(木)

⑵　令和７年度定時評議員会
令和７年６月２５日(水)

⑶　第６７回全国産業教育振興大会
令和７年１０月２５日(土)・２６日(日)
郡山ビューホテルアネックス

⑷　令和７年度臨時評議員会
(オンライン開催)
令和８年３月１３日(金)

埼玉産業教育（第７８号）
発 行 所　埼玉県産業教育振興会
(事務局)　埼玉県教育局県立学校部
高校教育指導課 産業教育・キャリア教育担当
所 在 地　〒330-9301
さいたま市浦和区高砂3-15-1
電　　話　048-830-6769